

クリニック新聞

第52号
2017.秋

身近にひそむ危険なもの

ハチミツ

今年の春「ハチミツを摂取した6カ月の乳児がボツリヌス菌による毒素が原因で亡くなった」という報道がありました。

ボツリヌス菌はハチミツの中で芽胞という殻に包まれた状態で存在することがあり、毒素を排出すると、けいれん、呼吸困難などを生じ命にかかわることがあります。

1歳未満の乳幼児は消化機能が未熟なため、ハチミツを食べないよう注意喚起されています。

ネット上のレシピには注意書きが無い場合や、海外のお土産などでは成分が分かりにくいことがあります。

1歳未満のお子さんにはハチミツを与えないようご注意ください。



ギンナン

ギンナンも数を食べすぎると、嘔吐、けいれん、不整脈などの中毒症状を起こすことがあります。小児の症例が時々報告されています。

中毒の原因物質は、ギンナンに含まれるビタミンB6誘導体で、加熱してもその毒性は消失しません。

日本中毒センターの情報ではギンナンの**経口中毒量**は

小児 7〜150個

成人 40〜300個

(但し基礎疾患やビタミンB6欠乏の程度も関係すると思われる)

と記されています。

食すのはごく少量にしておきましょう。

イオン飲料水の飲み過ぎ

お水がわりにイオン飲料水を飲む方がありますが、成人でも多量に飲み過ぎるとペットボトル症候群など体調不良を起こす場合があります。体の水分量の多い小児はさらに注意が必要です。

飲酒、低栄養、偏食などが原因のビタミンB1欠乏症は以前からありますが、近年イオン飲料多飲による**ビタミンB1欠乏症**の報告がみられるようになっていきます。

ビタミンB1が欠乏すると

- ・脚気：倦怠感、息切れ、手足のしびれ、むくみ、心不全、腱反射消失

・Wernicke脳症：意識障害、運動失調、外眼筋麻痺

など様々な症状を起こし、死亡例や障害が残った例もあります。

イオン飲料多飲のきっかけは

「病気になった時から」という場合が多いようです。

嘔吐下痢のひどい時は病者用の経口補水液が適していますが、体調が戻ったら飲むのを中止しましょう。

イオン飲料水は虫歯、肥満の原因にもなります。

「冷蔵庫に常備して日常的に飲む」ということは避けましょう。

ボタン電池

ボタン電池も注意が必要です。小児の誤嚥に多い物として、薬とタバコがあげられますが、最近ではボタン電池も散見されています。

あやまって飲み込んだ場合、乳幼児では食道にとどまる事が多く、食道の壁に潰瘍ができる、穴が開く、といった重傷を負ってしまうおそれがあります。

誤嚥が疑わしい時は、すぐにX線撮影を受けた方が良いでしょう。

特に、**複数個を誤嚥した時**と、**ボタン電池と同時に磁石も誤嚥した時**は、電池と電池、電池と磁石の間にはさまれた腸管に穴が開いてしまうことがあります。

これらの場合は緊急摘出が必要です。救急受診してください。

事故防止のためには、子どもの手の届くところに危険な物を置かないようにすることが一番大切です。

